

会 議 録

会議の名称	市民参加推進会議（第47回）	
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係	
開催日時	平成29年3月23日(木)午後7時00分～午後9時03分	
開催場所	前原暫定集会施設 B会議室	
出席者	委員長 西尾 隆 委員 副委員長 渡邊 大輔 委員 委員 一山 稔之 委員 大久保 勝盛 委員 佐久間 博子 委員 原 久子 委員 五島 宏 委員 中村 彰宏 委員 天野 建司 委員 中谷 行男 委員	
欠席者	三輪 茉莉香 委員、山下 光太郎 委員	
事務局	企画政策課長 三浦 真 企画政策課係長 古賀 誠 企画政策課主事 高橋 奏恵 企画政策課主事 齋藤 彬子	
傍聴の可否	○ 一部不可 不可	
傍聴者数	0人	
【会議次第】 1 開会 2 市民参加条例運用状況等について (1) 第7期の委員募集について (2) 附属機関等の委員募集・選任結果及びパブリックコメントの意見募集・検討結果の市報フォーマットの変更について (3) 提言案の検討について 3 閉会		
【会議結果】 1 開会 2 市民参加条例運用状況等について (1) 第7期推進会議の委員の募集について 現在、第6期委員の任期中であるが、次期の委員募集について5月に市民団体代表者枠の募集を、6月に公募市民の募集を開始する。なお、公募委員については、市民参加条例で5人となっているところ、3人を論文審査について2人を無作為抽出にて選出したい旨、事務局から説明が行われた。 【主な意見】 ○ 論文という表現は、市民から見ると非常に重く感じる。もう少し柔らかい表現で応募を促す工夫が必要ではないか。 ○ 800字という字数もエッセイ的な形として市の役割と市民の役割400字ずつという形ではどうか。 ○ 条例上、論文と規定されているならば、「論文（エッセイ）」という表現でも良いのではないか。		全文記録ページ P1～2 P2～5

- 委員会での意見を踏まえ、部局内で検討したい。

まとめ

委員公募の人数内訳については、特段の意見なく終了し事務局案が承認された。なお、募集時の「論文」という表現については、事務局が持帰りの上、検討することとなった。

- (2) 附属機関等の委員募集・選任結果及びパブリックコメントの意見募集・検討結果の市報フォーマットの変更について

【主な意見】

- パブリックコメントが多く寄せられるよう、より一層工夫が必要ではないか。
- パブリックコメントの公開場所、提出方法などの工夫が必要ではないか。

まとめ

委員会からの意見を受け止め、改善が可能な部分は適宜対応をすることを事務局に求め、今回の報告については了承された。

- 3 提言案の検討について

第6期委員会の議論のまとめとなる「提言」を市長に提出するに当たり、正副委員長（案）が提出され、その内容の骨子について事務局から説明が行われた。

【主な意見】

- 昨夏、市がワークショップを実施した。この際、市民からの意見も多く出たのであれば、それらのまとめを行うべきであり、やりっぱなしならやらないほうが良い。
- 提言のボリューム的には、今回の資料程度で良いと思う。
- 次期委員への申し送り事項については、明確化しておいたほうが良い。
- 参加者へのインセンティブとして、金銭という表現はいかがなものか。
- SNS の活用などについても、（市は）取り組んでいただきたい。
- 提言として提出する際には、市長との懇談などをお願いしたい。
（その他、今回資料として（案）について、文言の修正を求める意見が複数あった）

まとめ

本日の議論を踏まえ、正副委員長案を修正することとし、次回の委員会で継続して議論することとなった。

P5～P7

P8～P26

<p>4 次回推進会議の開催日について 5月25日（木）に実施することとなった。</p> <p>5 閉会</p>	<p>P26～P27</p>
<p>【提出資料】</p> <p>1 第7期市民参加推進会議委員の公募日程（案）</p> <p>2 附属機関等の委員募集・選任結果及びパブリックコメントの意見募集・検討結果の市報フォーマットの変更について</p> <p>3 提言案</p>	

会 議 録

会議の名称	市民参加推進会議（第47回）	
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係	
開催日時	平成29年3月23日(木)午後7時00分～午後9時03分	
開催場所	前原暫定集会施設 B会議室	
出席者	委員長 西尾 隆 委員 副委員長 渡邊 大輔 委員 委員 一山 稔之 委員 大久保 勝盛 委員 佐久間 博子 委員 原 久子 委員 五島 宏 委員 中村 彰宏 委員 天野 建司 委員 中谷 行男 委員	
欠席者	三輪 茉莉香 委員、山下 光太郎 委員	
事務局	企画政策課長 三浦 真 企画政策課係長 古賀 誠 企画政策課主事 高橋 奏恵 企画政策課主事 齋藤 彬子	
傍聴の可否	○ 一部不可 不可	
傍聴者数	0人	
【会議次第】 1 開会 2 市民参加条例運用状況等について (1) 第7期の委員募集について (2) 附属機関等の委員募集・選任結果及びパブリックコメントの意見募集・検討結果の市報フォーマットの変更について (3) 提言案の検討について 3 閉会		
【会議結果】 1 開会 2 市民参加条例運用状況等について (1) 第7期推進会議の委員の募集について 現在、第6期委員の任期中であるが、次期の委員募集について5月に市民団体代表者枠の募集を、6月に公募市民の募集を開始する。なお、公募委員については、市民参加条例で5人となっているところ、3人を論文審査について2人を無作為抽出にて選出したい旨、事務局から説明が行われた。 【主な意見】 ○ 論文という表現は、市民から見ると非常に重く感じる。もう少し柔らかい表現で応募を促す工夫が必要ではないか。 ○ 800字という字数もエッセイ的な形として市の役割と市民の役割400字ずつという形ではどうか。 ○ 条例上、論文と規定されているならば、「論文（エッセイ）」という表現でも良いのではないか。		全文記録ページ P1～2 P2～5

- 委員会での意見を踏まえ、部局内で検討したい。

まとめ

委員公募の人数内訳については、特段の意見なく終了し事務局案が承認された。なお、募集時の「論文」という表現については、事務局が持帰りの上、検討することとなった。

- (2) 附属機関等の委員募集・選任結果及びパブリックコメントの意見募集・検討結果の市報フォーマットの変更について

【主な意見】

- パブリックコメントが多く寄せられるよう、より一層工夫が必要ではないか。
- パブリックコメントの公開場所、提出方法などの工夫が必要ではないか。

まとめ

委員会からの意見を受け止め、改善が可能な部分は適宜対応をすることを事務局に求め、今回の報告については了承された。

- 3 提言案の検討について

第6期委員会の議論のまとめとなる「提言」を市長に提出するに当たり、正副委員長（案）が提出され、その内容の骨子について事務局から説明が行われた。

【主な意見】

- 昨夏、市がワークショップを実施した。この際、市民からの意見も多く出たのであれば、それらのまとめを行うべきであり、やりっぱなしならやらないほうが良い。
- 提言のボリューム的には、今回の資料程度で良いと思う。
- 次期委員への申し送り事項については、明確化しておいたほうが良い。
- 参加者へのインセンティブとして、金銭という表現はいかがなものか。
- SNS の活用などについても、（市は）取り組んでいただきたい。
- 提言として提出する際には、市長との懇談などをお願いしたい。
（その他、今回資料として（案）について、文言の修正を求める意見が複数あった）

まとめ

本日の議論を踏まえ、正副委員長案を修正することとし、次回の委員会で継続して議論することとなった。

P5～P7

P8～P26

<p>4 次回推進会議の開催日について 5月25日（木）に実施することとなった。</p> <p>5 閉会</p>	<p>P26～P27</p>
<p>【提出資料】</p> <p>1 第7期市民参加推進会議委員の公募日程（案）</p> <p>2 附属機関等の委員募集・選任結果及びパブリックコメントの意見募集・検討結果の市報フォーマットの変更について</p> <p>3 提言案</p>	

第47回小金井市市民参加推進会議

日 時 平成29年3月23日（木）午後7時00分～午後9時03分

場 所 前原暫定集会施設 B会議室

出席委員 10人

委員長 西 尾 隆 委員

副委員長 渡 邊 大 輔 委員

委 員 一 山 稔 之 委員 大久保 勝 盛 委員

佐久間 博 子 委員 原 久 子 委員

五 島 宏 委員 中 村 彰 宏 委員

天 野 建 司 委員 中 谷 行 男 委員

欠席委員 三 輪 茉莉香 委員 山 下 光太郎 委員

事務局職員

企画政策課長 三 浦 真

企画政策課係長 古 賀 誠

企画政策課主事 高 橋 奏 恵

企画政策課主事 齋 藤 彬 子

傍 聴 者 0人

（午後7時00分開会）

◎西尾委員長 皆様、どうもこんばんは。47回目の市民参加推進会議を開催したいと思います。

今日は、三輪委員、山下委員がご欠席ということで、遅れて来られると聞いていた天野委員は間に合いました、これで予定の全員がそろいましたので、始めたいと思います。定足数は、施行規則24条で半数をもって成立するという事になっていますので、成立しております。

今回も切りのいいところで5分ぐらい、休憩をとりたいと思っております。

では、配付資料につきまして、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

◎事務局 それでは、資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、事前に送付したものの3点となります。

まず資料1、第7期小金井市市民参加推進会議委員（市民枠）公募選考基準（案）と資料2、附属機関等の委員募集・選任結果及びパブリックコメントの意見募集・検討結果の市報原稿フォーマットの変更について、こちらについてはそれぞれA4判1枚で裏表それぞれ追加されているものになります。そして資料3、こちらの提言案については、ホチキス留めされた資料になります。正副委員長より作成された資料となります。事前に送付させていただきましたもの

は以上です。その他机上にお配りしております当日配付資料はございません。配付漏れ等はありませんでしょうか。

◎西尾委員長 よろしいですかね。

◎事務局 では、委員長、よろしくをお願いします。

◎西尾委員長 それでは、今日の議題の2の(1)市民参加条例運用状況等についてということで、今6期なんですけど、第7期の推進会議の委員の募集について行いたいと思います。では、これも事務局のほうからご説明をお願いいたします。

◎事務局 それでは、説明いたします。資料1、第7期小金井市市民参加推進会議委員(市民枠)公募選考基準(案)、こちらをご覧ください。第6期推進会議の委員の皆様の任期は、平成29年12月21日までとなっております。今回の会議を含め次回が5月頃の予定となっております。提言の後の7月頃に最後の会議をして、任期中の8回の会議が終了となります。任期までまだ日数はありますが、前期同様のスケジュールで第7期推進会議の委員の募集を行いたいと思います。

5月は、市民団体代表者枠の募集を行う予定で、6月は市民枠の募集を行う予定です。つきましては、6月に募集予定の市民枠の募集人数を3人で前期同様募集を行いたいと思っております。市民参加条例上、市民枠は5人となっておりますので、残りの2名を7月頃に無作為抽出という形で選出したいと考えております。

無作為抽出は、男女の偏りや年齢の偏り等がないように、調整できる点や今まで市政にかかわりが少なかった市民の方を呼び寄せることができる点がメリットとしてありますが、こちらの人数を3人としてしまうと、応募してくださる「やる気」のある市民の枠を狭めてしまうということになりますので、今回も前回同様で公募を行っていきたいと考えています。

また、選考方法なんですけれども、論文としていることで、応募がしばらく要因となっていることも考えられます。市民参加条例の施行規則第11条第2項から、選考方法は①論文・作文等による選考、②面接選考、③書類審査、④抽選のいずれかの方法を選択することとなっております。応募をしやすくするため、論文という表現を変更することも考えています。

事務局では、資料1の内容で募集させていただこうと考えておりますが、選考方法の論文という表現を含め、ご意見等がありましたら、お伺いできればと思います。

資料1の説明については以上です。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。今の資料1につきましてのご意見などございますか。論文でないほうがいいのか。どうぞ。

◎渡邊副委員長 私は、この資料を拝見したときに、論文という表現が気になりました。私もアカデミックなところにいるので、論文という表現を非常に重く感じるわけです。なのでレポートとか、あとエッセイみたいな表現の方がいいのかもしれない。ただ、一応条例ではどうも論文という表現が使われているということですので、論文(エッセイ)とかというような形であれば、論文を書くのみたいなイメージよりは、少しハードルを下げることができるのかな

ということがちょっと引っかけた点です。論文という言葉を使うにしても、括弧書きで、少しでも興味がある人に一歩でも二歩でも進んで応募してもらいやすいような表現にしたらどうかというのが提案です。

◎西尾委員長 いかがですかね。論文のほうがいいという方はいらっしゃいますか。

◎五島委員 論文というのは、普通の人かどうかかわからないと思うんですけど、普通の人には書かないので、せいぜい頑張っても作文、作文を例えば400字書けとばつと言われて、すらすらかける人もそうそういないと思うんですよね。確かにおっしゃるとおり、論文という2文字がハードルを上げているというのはあるかと思います。僕も、報告書を出したりするので、文字を起こすことがあるんですけど、それでも論文を書けと言われると書けないと自分で思っているんで、以上です。

◎大久保委員 さっきの4つの中に書類というのがあったんですけども、この書類の中身というのは、論文を出したときも多分プロフィールみたいのは提出させてもらったと思うんですけども、書類だとどういうものを集めることに。

◎事務局 書類審査というのが、実はほかの附属機関等の中でもかなりやっていない状況になっています。なので、項目としてはあるんですけども、ほぼないような状態なので、どんなものかという点と難しいんですけども、ただ、論文の名前、住所、年齢ですとか、そういったもののほかに、多分もう一言くらい自己PRじゃないですけど、面接シートのようなものを書かせるイメージなのかなと思っております。

◎西尾委員長 ということです。

◎一山委員 先ほど副委員長がおっしゃったやつをもうちょっとやわらかくして、論文を外してテーマを書いてありまして、エッセイについて審査し、選考しますと。市の役割とか市民の役割の2つを設定し、書いていただきますと。最後にそれぞれ最大400字以内、合計800字以内とかですと、それぞれ400字以内とかと書くよりは、一番最後に最大400字でいいんだと、800字というのと一緒なんですけど、それぞれ最大400字以内というようにやわらかい、論文というのを一切書かない、エッセイと書いていただく、あるいは作文でもいいんですが、以上です。

◎西尾委員長 論文という言葉はなくても平気ですかね。どうでしょうかね。条例の中にそこだけはあるということですので。

◎大久保委員 書類が一番自由度が高いですよ。全部書類と言われれば全部書類。

◎西尾委員長 エッセイも全て書類の概念の中に入れる。字数はこうやって明記してあるので、あとはイメージだということですね。

◎一山委員 そうですね。イメージをやはりやわらかくしたほうが、より広く市民の方からのということであれば、ただ、条例上論文という言葉はどこかに入れなくてはいけないのであれば、副委員長がおっしゃったように、論文（エッセイ）と。

◎渡邊副委員長 どちらでも構いません。ただ、一応条例で書かなきゃいけないということで

しょうか。

◎事務局 そうですね、はい、論文か作文等による選考という表記なので、論文という言葉は入れていただきたいなという気持ちはあります。なので、括弧書きですとか、何かしらの言葉として1つは論文という言葉はどうにか入れていただければなど。

◎西尾委員長 やっぱり要るそうですので、役所としてはそうですね、基本として。

◎一山委員 ただ、論文か作文であれば、アンドじゃなくてオアですから、論文か作文だったら、作文（エッセイ）ぐらいにやわらかくできませんか。

◎西尾委員長 作文（エッセイ）、これはどうですか。

◎事務局 そうですね。そちらでしたら大丈夫だと考えます。

◎西尾委員長 提出作文（エッセイ）、どっちにしてもエッセイだけでは困るようですので、今までは論文という言葉を使ってきているわけですね。

◎一山委員 論文というとかかなり身構えないと、やめておこうかなという方は。

◎西尾委員長 迷う人は、その言葉でやめようかなと。

◎一山委員 作文というと、何か市に対する思いを書けばいいのかなと、さらにエッセイでもというイメージがあって。

◎西尾委員長 それでは、できるだけやわらかくということなので、作文（エッセイ）とするのはいかがでしょうかね。それで困ることはないですね。じゃ、作文（エッセイ）とやろうと思いますので、エッセイと書く、エッセイでいいですかね、というふうにしたいと思います。大丈夫ですね。

◎事務局 大丈夫ですというか、本日のご意見を参考にさせていただくのはもちろんなんですが、行政として今この場でというのちょっと厳しいので、1度すみません、持ち帰らせていただきたい。実際にもし皆さんのご意見、論文という言葉がかたいというご意見でございましたので、それも含めて作文にさせていただく場合には、試行というか、試しにやらせていただくというような位置づけかなと思いますので、部局で持って帰り検討させてください。

◎西尾委員長 お任せということで意見をお伝えしたという感じですね。施行規則で論文・作文等によるだから、拡大解釈すればエッセイと見ていいかもしれないですが、言葉としてそういう言葉が条例上あるので……。

◎事務局 では、次回。

◎西尾委員長 ということで、意見をお伝えして、いろんな形でやっていただきたいと思いません。

◎一山委員 すみません。それぞれ400字以内と書いてあれば、後ろの合計800字以内は要らないんじゃないかと思うんですよ。それぞれ400字以内であれば合計は800字以内になります。

◎天野委員 それじゃ、表現をもうちょっとわかりやすく。

◎一山委員 400字というと、原稿用紙1枚書けばというイメージなんですが、800字と

あえて強調されると、そっちのほうが印象としては残ってしまうし、数学的には400以下というのが2つあったら合計したのも800……。

◎西尾委員長 そういう意見も、これも含めて、じゃ、お伝えしておきます。これをオーバーして失格ということはないですよ。

◎事務局 欠格にはならないですけども、減点の対象にさせていただくことはあります。

◎西尾委員長 なるほどね。では、そういうふうな扱いで最終的には市に委ねたいと思います。それから(2)の附属機関等の委員募集・選任結果及びパブリックコメントの意見募集・検討結果の市報フォーマットの変更について、ちょっと長いタイトルですけども、これについてご説明をお願いいたします。

◎事務局 それでは、資料2をご覧ください。こちらについて説明させていただきます。

附属機関等の委員募集・選任結果及びパブリックコメントの意見募集・検討結果、こちらについては、市報等で掲載することが市民参加条例の施行規則より定められています。広報担当から、市報について字数を少なくし、わかりやすく統一的に表記するために、平成29年4月1日から、来月の市報から、こちらより新フォーマットの形に変更したいと連絡がありました。資料2の表の右側、こちらは旧フォーマットになります。こちらと新フォーマット、左側のフォーマットを見比べていただければと思いますが、常設である項目について、例えば新フォーマットの四角で囲ってある「定める」という字になっている、こちらが定数を示しています。その1個下、四角で囲ってある「対」なんですけれども、こちらは対象定員を示す、こういった形でそれぞれあらわしています。そしてここに記載のある項目以外は基本的に担当課へ問い合わせるような形となっております。

内容等に大きな変更はございませんので、こちらはあくまでご報告ということでさせていただきます。ご意見等がありましたら、後日担当課に報告したいと考えております。

資料の説明については以上になります。

◎西尾委員長 ありがとうございます。という報告なので、報告了承という案件ですが、何かご意見はございますか。今まではよくわかったんですけども、今度は四角の中で、これは何だろうかというふうに感じる人もいますよね。

◎一山委員 ちょっとお話ししてもよろしいでしょうか。

◎西尾委員長 どうぞ。

◎一山委員 表は委員の募集のところは、ものすごくすっきりしたなと思うんですけど、裏のパブリックコメントは、あまり変わっていないんですね。これを表のような、ざくざくと切ったりはできるんでしょうか。

◎一山委員 注意事項というのはあくまで行政向けの言葉ということですか。

◎事務局 そうです。こちらの注意事項はあくまでメモになります。

◎一山委員 それでも2行ぐらいしか減ってない。でも一応。あと、網かけのところは色がつく。

◎事務局 ここは、すみません、色はつかないかもしれないんですけども、ただの項目ですね。

◎一山委員 特にパブリックコメントを、この委員をさせていただいてから市報を読むようにしているんですけど、あまり集まっていないという気がしましたので、もうちょっと表のようにすかすかにして、パブリックコメントが本当に欲しいんだという感じを広報の方が知恵を絞られたんですけど、さらに別の課の方が見ると、企画政策課の方が見ると、もっと斬新になると、アイデアが出されるのかなど、課としてやってないんですかね、もうちょっと、という感想です。

以上です。

◎事務局 例えばどこら辺をカットしてもいいとか、そういったご意見があればぜひお伺いできればと思います。

◎一山委員 項目は左の項目を公開の期間とか、あと場所とか、そういうところは変えられないんですけど、例えば公開場所をこんな載せなくちゃいけないのという、1行でおさめられる程度にして、主な場所として、何とかほかというふうにすれば、全部1行ぐらいにして、それからあと、表はスペースをあけられているのが、本チャンもこのようにスペースをあけられるのかどうかわかりませんが、もうちょっと行間をとられたら、せっかくカットされたのでというようなこと、それから一番最後の提出方法についても、これらがあまり変わっていないという感じがいたしますので、ここもコンパクトにされたらいかがでしょう。住所不要とか、市役所とか何とかというよりは、住所は不要なんですから、郵便番号と市役所だけ書いておけばそれで済むような感じもいたします。

◎西尾委員長 それはそうかもしれないですね。

◎一山委員 いや、わかりません。単なる素人のコメントですので、流していただければ結構です。

◎西尾委員長 とにかくすっきりしたいので。

◎一山委員 いや、前のほうの意図が、委員の募集というところが、どうも、これ、非常にわかりやすく、こういうことを募集されているんだというのがわかるんですけど、パブリックコメントのところは、同じコンセプトでお作りになっていないと、簡素化されてない。もっとうがった見方をします。パブリックコメントはやはりあまりいただきたくないの、見にくくしているとか。

◎事務局 そんなことはございません。

◎西尾委員長 むしろもっともっと欲しいの、多いようですね。

◎一山委員 というのを私が市報を見て、あれ、パブリックコメントがないな、これもないなというので、であれば、つまりもっとぱっと見てわかるという形のほうがいいかでしょうかと、単なる感想です。

◎大久保委員 僕も感想なんですけれども、パブリックコメントをもし複数を同じ市報でとる

場合であれば、公開場所、提出方法なんかは1回だけ書けばいいのかなと思います。ただ、ちょっと提出先が各課に分かれてしまうとあれなので、そこだけ工夫が必要かなと思います。これ、公開場所がパブリックコメントごとに変わるということはないですね。

◎事務局 基本的な場所是一緒です。そこにプラスアルファで、その担当課が必要と思った施設をプラスすることがございます。

◎西尾委員長 ホームページで見る人が多いですかね。場所はいろいろ特定されていますけども、主な市の公共施設というのでは、いろんなところに、広報に書いていないものもたくさんあるわけですね。

◎大久保委員 もう一つ、1つのアイデアなんですけれども、パブリックコメントは大体年齢層的には高い方の提出が多いんでしょうかね。

◎事務局 そうですね。

◎大久保委員 若い人向けだったら、それこそホームページか何かから申し込みフォームみたいにジャンプして、そこに自由に意見を書き込めるようにしたほうが、ファクスで送る若い人はいないと思うんですよね、直接持っていく人が。できればそういう手法も考えていただけるもうちょっとした時間にでも意見とか送りやすいのかなと。

◎渡邊副委員長 前回確認しましたが、ホームページの専用フォームだとメールは大丈夫ですか。

◎事務局 そうですね。メールは添付ファイルでつけるタイプですと、こちらで確認が難しいので、いわゆるベタ打ちの状態で送っていただけると、1つの意見として受け付けることは可能という形になります。

◎西尾委員長 ファクスでどれくらい来ますか。

◎事務局 そうですね。場合によるんですけれども、ファクスは必ず1件くらいはあり得るかなとは思っています。

◎西尾委員長 役所的には……。

◎大久保委員 ファクス1つにつき1件ぐらいだったら、どこかの課にまとめてファクスを送ってもらってだめなんですか。パブリックコメント担当のファクス番号、そんなに数がないなら、ファクスで送ってくるのは。今はメールでも確認できるようにファクス内容がなっていますので。

◎西尾委員長 とは言いながら、いろんな手段を1つでもあるなら置いておく必要があるというようなところがあるんですかね。というので、多分役所的な用心深い気持ちから、これが限界だったのかなとちょっと想像しますけどね。確かに裏表を比べてみると、すっきりしたような感じもありますから……。

こういうのもご意見としてお伝えすれば、そのうち改善はするのかなというふうに思いますので、どうもご意見ありがとうございました。このご意見はちょっと報告了承のような案件でしたので、今回はこういうことで了解したいというふうに思います。

◎西尾委員長 それでは、今日の次第の3、これはメインの議題ですけれども、提言案の検討について進めたいと思います。資料3をご覧いただいたかと思うんですが、これ、私と渡邊先生のほうで賛成して、市のほうとも少しすり合わせも行いました。その素案となります。今日は、この提言案をもとにいろいろ意見をいただいて、ここで最終的に決定する必要はありませんので、次回までにこの意見を踏まえたものを作成して、確定して、市長に提出するというようにしたいと思います。ですから、次回もう一遍文言の修正は可能ですけれども、できるだけそれに近い形でまとめたいというふうに思っています。

それでは、事務局から説明をお願いします。

◎事務局 それでは、ご説明申し上げます。お手元に配付させていただきました市民参加をより一層推進するための取組についてにつきましては、本日ご出席の皆さんが所属されます第6期のこの委員会における議論の成果をまとめとして、小金井市長へ提言という形で提出する文書の案文、下書きでございます。内容につきましては、文案の骨子を正副委員長が作成された後、事務局におきまして資料としてあらかじめ配付させていただいたものとなっております。

それでは、提言案につきまして概括して事務局よりご説明いたします。

まず、全体の構成でございます。提言につきましては、1ページ冒頭のはじめにから、1、これまでの経緯、2、提言、結びといたしまして、最終的におわりにと4ページになってございます。

このうちはじめにの部分では、平成27年12月から平成29年5月までになりますけれども、7回の議論の中で、市民参加をより推進するため市に対しワークショップの実施を提案する旨を述べているところでございます。

次に、1、これまでの経緯の部分では、これまでも公募による市民参加の手法を整備したものの、附属機関等への参加は高齢者層の方々が中心であり、参加する年齢層に偏りが見られることから、前期、こちらは第5期になりますけれども、の皆様からの市民参加推進会議からの継続事項として、若者の市民参加に焦点を当てて議論を進めてきたことを述べているところでございます。

今回の提言の骨格部分となります2、提言では、前段でワークショップの実施により今後の市民参加の推進につながることを期待できる旨を述べております。

2ページに参りまして、このページ以降では、(1)ワークショップの運営について、(2)ワークショップに係る広報について、(3)議論の成果について、(4)その他といたしまして、それぞれ各パートの中で具体的な理由、意見を提言としてまとめてございます。

3ページのおわりにでは、公共施設に関する市民意見交換会を通じまして、各委員がワークショップ形式による意見交換の場を経験し、今後小規模でもよいのでワークショップを少しでも多く企画の上、市の職員の参加も期待していることが述べられて全体を総括する形になってございます。

以上、雑駁ではございますけども、提言案の概要説明を終了いたしまして、本日皆様からご意見を頂戴したいと思います。

委員長、よろしく願いいたします。

◎西尾委員長 どうもありがとうございました。そういうことですので、第5期は6ページぐらだったんですけど、今回は半分の本文3ページというコンパクトなものなので、今日で大体の議論をいただければ詰めることができるんじゃないかなと思います。

そうですね。上のほうから行きましようかね。はじめにのところで、構成についてもご意見があれば、全体の構成について何かありますか。大体これまでの形式は踏襲しているんですけども、それでは、はじめにのところからご意見をいただきたいと思います。タイトルからいくと、タイトルの若者という言葉は今回は入っていないんですね。前は若者の市民参加を推進するための具体的な方策についてというタイトルをつけていたんですが、それを踏まえているので、今回はその言葉を特に入れていないというところが違います。最後までいって、どうしてもこれはサブタイトルで入れたいというふうなご意見があれば、また承りたいと思いますけれども、それでは、はじめにのところはいかがでしょうか。ワークショップということがどういうことかというので、前回の第5期では参加型の学習会という、そういう説明をしていたんですが、参加型の学習と議論の場というふうに今回はしております。もうちょっと詳しい説明があったかと思いますね。

◎原委員 何の質問でもいいですか。

◎西尾委員長 結構です。

◎原委員 3点、1番目は、資料1の選考に当たっては男女の偏りが無いということと、地域に偏らないことを極力避けるようというふうに書いていますが、偏ったらどうするんですか。受験時期だけ、偏ることだってなきにしもあらずだから、そんなときは、ここは1人出たら1人で、こっちは5人出たら4人というポストがいることになるわけですか。

◎西尾委員長 資料1に關係してですか。

◎原委員 はい、そうです。1になるんですね。今度は3の中であるので、経緯としてやっぱり高齢者が中心であるというところがありますけれども、若い人ということは何かにつけこの委員会でいろいろ言ってきましたけれども、さっき大久保さんがおっしゃったのに関連するかもしれないですけど、若い人は市報なんか見ませんよ。大体高齢者しか見ていない。だから高齢者しか応募してこないと思うんですね。やっぱり今の時代、ネットとかラインとかスマホとか、何かそういうので募集でも何でも若い人を集めたかったらやらないと、全然のってこない、市報に書くぐらいではと思います。ということと、それともう一つは……。

◎西尾委員長 全体的なそれは考え方というか……。

◎原委員 はい、時代がちょっと遅いんじゃないかなと、若い人若い人と言う割にはと思います。それとワークショップをやって、それでいろんな意見が出て、それをまとめたみたいになりましたけど、その後そのワークショップのフォローをやったんでしょうか。結果その人たち

のこういうことを話し合いましたまでは出たけど、だからどうなんだみたいな。

◎西尾委員長 ワークショップのフォローですね。

◎原委員 この前やったワークショップのね。こういうふうにとまりました、まとまった案みたいのが出ましたけれども、だからどうしたんですか、その後とかいうのを聞きたいです。

◎西尾委員長 そういうお考えをどこにどういうふうに入れていくかという……。

◎原委員 こういう意見が出たけど、だからどうなんだと、その意見をどうしたかと、例えば具体的にこれをこういうふうにしましたよと、こういう意見がこういうふうになったとかね。

◎西尾委員長 広報についてという項目が2ページ目の下のほうにあるんですね。ここをもっと詳しく書くかというふうなことになりますかね。

◎一山委員 委員長、よろしいですか。今おっしゃっているのは、前の夏のことの結果のご質問じゃないかと思うんです。

◎原委員 参加した人が何人か知り合いがいて……。

◎一山委員 夏にやって、我々が勉強の場に参加させていただいたワークショップで、いろんな意見が出てまとまって、その結果のことをご質問なさっていると私は解釈したんです。

◎原委員 だから例えばそのワークショップに私の知り合いが3人ぐらい出て、あれさ、こういう話になって、その後どうなったのと聞かれたから、私が聞きたいわと言ったんですけども。

◎西尾委員長 そうですね。そういうことを入れて……。

◎原委員 だから、まとめは、まとめたものを報告してくださったって聞いたけれども、それをして、具体的にそれをこういうふう位置づけてきたとか、できなかったとか、その後参加した人たちにこういうことになった、こんなになったよというのとか、そういうのはされていないみたいなのですね、その人たちの話を聞くと、そういうのは。それで、ただやってまとめて終わりだったら、やらないほうがいいじゃないと私は思うんですけど。

◎西尾委員長 いや、そのとおり、まさにそのとおりで、この議論の成果というのが、これは2ページ目の一番最後のところなんですけど、そこがそれに対応しているかなというふうに思うんですけどね。

◎原委員 いろんな意見が出たから、それをすぐ実現できるわけじゃないけども、だからそういう意見が出たからこういうふうにしようと思って、こういうことをここまでやりましたとか、それをするのには5年かかりますとか、何か……。

◎西尾委員長 その辺の還元の仕方というふうなことですかね。

◎原委員 それをだんだん何回かやることで実現していったとか、改善されていったとかというのが見えると、参加した人も参加して、よかったと思うんじゃないかなと思います。

◎渡邊副委員長 今の原委員にかかわることとしますと、たしか小金井市でパブコメの結果に関しては1月末に返事が、総合計画に対する意見のものは出ているんですが、ワークショップのまとめの意見反映みたいなものは特にまとめは出ていませんでした。おそらく原委員のおっしゃられたようなこととは、結局参加された方が存じ上げているかどうかと別問題であり、そ

れは広報の問題だと思います。パブコメのようにまとめられているのであれば、意見と回答は出るはずですが、だからそれは、やるべきであると思っているんですが、この前のワークショップでは意見と回答の掲載を行ったのでしょうか。ホームページ見ただけでは見つからなかったのです。

◎事務局 すみません。担当を今日はお呼びしていないので、正確なところはわからないんですけども、まず公共施設総合管理計画という大きな計画がございます。それは今作っているところなんです。その中で1つワークショップというのをやりました。パブリックコメントもやりました。今最終的に市民説明会もやっているところなんです。それを全て包括して、最後冊子にアウトプットする形になるのは従前のおりなんですけれども、原委員がおっしゃる通り、ワークショップでどういう意見があって、それを集約して、それがどこに反映されているんだというところは、私も直接の担当ではないので、今いいかげんなことも申し上げられないので、調べて次回ご返答させていただきます。申し訳ありません。というところです。

◎西尾委員長 「おわりに」のところにそのことをちょっと書いてあるんですけども、そこにもう少し書き込んだほうがいいかもしれないですね。あれはよかったみたいな言い方も書いていますが、それについての正確なところを把握した上で、何が足りないとかですね。

全体的なご意見なので、今、私の進め方は文言から入っちゃったんですけども、上のほうから、これは読んできていただいたという前提で進めてしまいましたけども、これは絶対に落とせない論点とかというのがありますかね。若者に焦点を当てるなら、そういう広報戦略を必ず入れるべきだとかですね。ワークショップのその後の取扱い、その後の市報への反映の仕方とかですね。どうぞ。

◎五島委員 提言としては、ボリュームも含めてここはいいんじゃないかなというふうに思いました。確かに細かいことを言っていると、これをもうちょっとちゃんと書きたいというのがあって、そういうところが出てきちゃうんですけど、多分テクニカルなところに入ってっちゃうので、それをここにだらだら書いてもしようがないんですよ。でも、そうはいつでも、仕事で広報の難しさを最近特に感じていて、ニーズは確実にあるんだけど、そこに届かないんですよ。ただ、その情報か、人かわからないけど、ハブみたいな人を見つけると、この人に渡すとぼんとそこのある一定の層に広がるんですね。多分それがどこにそういう人がいるのか全然わからない、どの人に渡せば広がるのか全然わからないんですよ。そうすると今のワークショップみたいな結果はこうなりましたというのがあって、それは参加者の1人に伝えるのは、それはできるかもしれないけど、そうじゃないと、こういう議論があったということはこの人にじゃどうやって伝えるかというようなことを考え出すと、切りがなくなっちゃって、やらなきゃいけないんだけど、なかなか難しいなというふうに、そんなことはわかっていて思うんですね。

そこに工夫がやっぱり、行政は行政で広報を情報発信しなきゃいけないんだから、それをちゃんとやらなきゃいけないんだらうと思うんだけど、このヒントは多分行政にもない、別にこ

れが小金井だとかという話じゃなくてということもあわせて一緒に考えてしまったんですね。すみません。

◎西尾委員長 いえいえ。しかし今回広報戦略というふうな柱が立ったのは1つの前進ではないかと。SNSという言葉がある。

◎五島委員 そうですね。メールが今制限されたんですよね。別の課で伺ったんですよ。今まではその課に送ったら、課の人たちが全員読んでいたのが、読める機械が結構に限られたんですよね。そうするとそこを見にいかなきゃいけないようになったんですよ、職員の人。それはセキュリティというのはそれはわかるんですけども、手間が多分増えている。

◎西尾委員長 これは全国的なんですか、そういうものは。そういうセキュリティへの対応というのは。

◎五島委員 そういうところ、どんどん離れていくじゃないですか。そうするとそれをスマホを用意するみたいなことになっちゃう、そういう話も僕何回かして、僕らなんか、仕事とプライベートの境目がすごく曖昧なので、考えないでおこうと思うんですけど、それを行政に求めると結構ハードルが高いんじゃないかなと。

◎西尾委員長 どんなふうに進めましょう。進め方として、上からいくと、広報のところの項目があるんですけど、ざっと上から行ってよろしいですか。はじめにのところで大きな問題がなければ、とりあえず、これは前書きのようなものですから、前の第5期を受けてといいますか。

◎一山委員 前の続きでお書きになるのであれば、次期の第何期への言葉も最初に入れてもよろしいでしょうか。それともそれは最後のおわりにというところで書かれたほうがよろしいんですか。やはりこの前初めて、今回初めて参加させていただいて、何をやるどころかが本当に見えないまま2回、3回とあったので、多分次の方がおやりになるときに、引き続きこの言葉が宿題として残っているよというのが見える形のほうが、一番最初に書いてあると、結論として、ありがたいかなという、単なる提言。多分この提言を市長の方がお読みになって、次期の推進会議のメンバーの方がお読みになったときに、はじめにの何行かが一番大事、私なんかは企業も3年ぐらい経験してしまして、最初に結論を言えと、A4判1枚にしると、報告書は詳しくてもいいけどという教育を受けましたので、最初に「はじめに」を僕はすごく一生懸命読んで、何をやる文章で、何を目的に、それで各論に入る、そうすると成果を強調されるのはもちろんですけども、次期にこういうふうに宿題として残してあるというのを前回6ページもお書きになったんだったら、あと一、二行増えてもいいのかな。

◎西尾委員長 おわりにのところですかね、どうですかね。

◎一山委員 委員長、佐久間さんが。

◎西尾委員長 どうぞ3002

◎佐久間委員 私も最初に委員としてやったときに、何をしているのか、何をすべきなのかははっきりとわからなくて、最初の一、二回は、何か提案をするところなのか、あるものの内

容に対して、それがいいか、悪いかとかを審議するのか、その辺が曖昧で、わかりづらかった
ので、何をしているのかわからなかったというのがあるんですけど、それは入れていただいた
ほうがわかりやすいかなと。

◎**渡邊副委員長** 今のご意見はよくわかるので、ただ、この文章は市長に出すもので、第7期
の次期推進会議に出すものじゃない、むしろこの提案をした上で、もう1枚別に第7期の方へ
の提言とか、第7期の方へのお願いみたいな文章を作って、これはやってくださいと。もちろ
ん自由に次回の会議でおそらく新しいメンバーが構成されてやるんですが、このことをお願い
しますという文章を入れると、多分おそらく市長にこれを出しても100%回答は返ってこな
いと思います。前回は多分そうですよね。なので、どう考えてもこの文章、返ってこなさそう
なので、多分おそらく第何とか次期に対するコメントと市長にこれをやってくれというのは、
一緒にしちゃうと、ちょっと最初の章はわからなくなるので、それは分けておいて作成しては
どうかなというのが、今のご意見を伺った私の感想です。

◎**西尾委員長** それは必ず7期の人には届くという、7期の人には届くような形で別に作る
ということですね。それは1枚紙ぐらいで項目という感じですかね、これを申し送り事項。はじ
めにのところを、一応最初のセンテンスで、ワークショップの実施を提案することとしたとい
うのがあるんですが、インパクトがもうちょっと必要ですかね。

◎**一山委員** 例えばワークショップ（実施）を提案するだけではなくて、実施とそのフィード
バックのあり方についての検討を提案する。

◎**西尾委員長** 実施とフィードバックという言葉でおわかりですかというかわかるかな。何て
言えばいいんですかね、フィードバックというのは。

◎**一山委員** 先ほど副委員長が市長宛てと言ったのは、市長に書くのであればフィードバック
で十分わかるかなと。

◎**西尾委員長** 実施と……。

◎**渡邊副委員長** フィードバックのあり方についての検討というのが、原委員からもご提言が
ございましたので、実施とフィードバックのあり方についての検討を提案する、検討していた
だくことを提案するとか、その辺の文言は正副委員長と市の職員の方に。

◎**西尾委員長** あるいはもしこの本文に合わせるのであれば、議論の成果の活用みたいなこと
にしても、フィードバックだけじゃなくて、実施と議論の成果の活用について提言するみたい
な形の、もし文言を合わせるのであれば、フィードバックでもいいと思いますが、私は。

◎**西尾委員長** 括弧でまたやりますかね。フィードバック（議論の成果の反映）ですかね。括
弧を格好悪いと思う人もいますが、フィードバック（議論の成果の反映）ですかね。

◎**一山委員** 必ずしも反映はされないと思いますので、反映のあり方というか、丁重にお伺い
しました、以上という形もあるでしょうし。

◎**西尾委員長** でも、反映と書いてもいいんじゃないですかね。反映を求めているということ
で、100%反映は難しいということ。

では、そこはそういうふうにワークショップの実施及びフィードバック（議論の成果の反映）を、「反映・検討」とやると、ちょっとくどい気もするので、「反映を提案」ですかね。大丈夫かな、を提案することとした。

◎一山委員 委員長、後でテープを起こされるときに苦勞されると思うので、以下のとおりワークショップというのは最終的にどんな文章に。

◎西尾委員長 以下のとおり、「ワークショップ（参加型の学習と議論の場）の実施及びフィードバック（議論の成果の反映）を提案することとした」としておきたいと思います。

その次も実施というふうになっているんですが、本提案を基礎として、ここはいいですかね。そこまで。それも含めて実施というふうなことで。一応はじめにのところで結論は書いてあるんじゃないですかね。どうでしょうか。また戻ってもいいので、これまでの経緯のところはその次の1になっています。文言とか特にないでしょうか。

◎西尾委員長 その4行目のところ、「各種委員会委員への就任を要請するなど」、「への就任の要請などにより」かな、ちょっと文言ですが、「委員への就任の要請などにより」のほうがちょっとすっきりするかなと思いますけど。

◎一山委員 もっと簡単にしてもよろしいでしょうか。「無作為抽出によって各種委員会委員の選出などにより」。

◎西尾委員長 そうしましょうかね。「無作為抽出によって各種」……。

◎一山委員 「各種委員会委員の選出などにより」ですね。

◎西尾委員長 「選出など」ですね。

◎渡邊副委員長 無作為で選ぶのですが、お願いしてもやっていただけるとは限らないので、その中でたくさんの方をお願いして、実際に、じゃ、そういった形でいいですよと言われるのは少ないために多分この表現になっていると思います。

◎一山委員 もうちょっとわかりやすい表現で…。

◎渡邊副委員長 それは「無作為抽出法の採用などにより」ぐらいでもいいかもしれないですけど、わざわざここまで説明をする必要はないかもしれません。

◎西尾委員長 「無作為抽出の活用などにより」……。

◎渡邊副委員長 ぐらいで私はいいと思います、短くするなら。

◎西尾委員長 短くするなら、「無作為抽出の活用などにより」でいいですかね。具体的な経路を拡充すると。

◎中村委員 よろしいですか。中村です。最後の今おっしゃった具体的な経路を拡充してきたというよりも、これよりも文言として、例えば市民が市政に参加する機会を増やしてきたと、「経路を拡充」は、ちょっと日本語的にどうなのかなと。機会を増やしてきたということだと思っんですけど、おそらく。あるいは選択肢を増やしてきた、そういう形のほうが日本語的にはいいような気がします。

◎西尾委員長 参加する機会を拡充してきたわけですね。

◎中村委員 経路を拡充、機会を増やしてきた。

◎西尾委員長 「具体的な」という言葉はどうか。要らないですか。

◎中村委員 具体的はなくてもいいんじゃないですか。

◎西尾委員長 「参加する機会を拡充してきた」、具体的にはそういうふうにしていきたいと思います。「機会を拡充した」。その前のところは「無作為抽出の活用などにより」ですかね。よろしいですかね、それで。大分すっきりする。

◎一山委員 もっと短くしてもよろしいですか。「無作為抽出による各種委員会委員への要請などにより市民が市政へ参加する機会を拡充してきた」。

◎西尾委員長 すみません。もう一遍言っていただけますか。あまり簡単になっていないような感じもしたんですけど。

◎一山委員 「無作為抽出による各種委員会委員への要請などにより」、「就任」というのを省いて。

◎西尾委員長 もっと簡単に「無作為抽出の活用」ぐらいにしてもいいかなとちょっと思ったんですけどね。

◎一山委員 後ろの就任を要請するというのは。

◎渡邊副委員長 「無作為抽出の活用などにより」、就任は載せない。

◎西尾委員長 ありがとうございます。でも、全部なしでもわかるんじゃないですかね。「無作為抽出の方針を導入した」ということを書いておけば。公募を増やした、それから公募の中でも無作為抽出の活用を入れた、それで参加する機会を拡充してきた。もう一度読みますと「無作為抽出の活用などにより市民が市政に参加する機会を拡充してきた」ということですね。

次のセンテンスは、「高齢者が中心であり」というふうに、これはこれでいいですかね。実態がそうであるので。よろしいでしょうか、ここのところは。

ちょうど8時になったところなんですけど、水入りで5分ほど休憩をとって、提言の本文に入りたいと思います。5分ほど休憩をしたいと思います。

(休 憩)

◎西尾委員長 それでは、5分間の休憩を終えまして、2の提言のところに入っていきたいと思います。もちろんどこからでもいいんですけども、ご意見がありましたら、どの項目でも順序を問わず、例えば最初は提言の文言で、それからその後1、2、3でブレイクダウンした説明があって、提言のところにも「実施を提言する」ですけども、もう一度繰り返しますかね、実施とフィードバックということで。「とそのフィードバック」なんですけどね。フィードバックを提言する、今回も説明いらないだろうと思いますが。最初のパラグラフの提言の部分で、次の2つがその説明ですね。ワークショップのイメージを具体的に、これぐらいの文章なら朗読してもいいですが、ちょっとお聞き苦しい声なので、黙読をしていただいて、気がついたことを何でも言っていただければと思います。さっき五島委員から、テクニカルなことだということも、書けばたくさんあるというのものもあるんですけど、やっぱり幾つかこのグループの数

は5、6人とか、そういうふうなものも書いたほうが具体的にわかっているんじゃないかなというところですよ。

前期のときにちょっと議論になったので、テーマを具体的に例示するかどうかというふうな、そういう議論もあったんですね。今回あまりそれはしていないんですけども、若者の居場所作りとか、仲間作りとか、子育て環境の改善とか、自転車による図書館のあり方というふうに例示をしているんですね。そういうふうなことがもしあったほうがイメージが湧くということならば、公共施設のあり方とかですね。

◎中村委員 今回のテーマのことですけど、市長に提言するのであれば、具体的にそこまで書かなくてもいいような感じがするんですね。市長はおそらくわかっていると思いますので、市民に対して書くんだったら、そうやってかみ砕いてやったらいいと思うんですけど。

それから続いてよろしいですか。2ページ目のワークショップの運営についてのオのところですかね。魅力的なワークショップを開催するには云々かんぬんとあり、それで、参加者に一定のインセンティブを与えることも考えられる、この点については物品や金銭に限るものではなく、参加を促す市民層や経費等も視野に入れながら有益な導入方法を考えてもよいということですが、これは何か具体的に書かなくていいんでしょうか。何を意図しているのかというのがちょっとわからない。

◎西尾委員長 物品とか金品とか書くのもどうかなと思うんですが……。

◎中村委員 だから……。

◎西尾委員長 それがあることで、あ、なるほどね、それに参加することでメリットを感じるというふうな、そういうことを言っているのかというのは、少しぐらいはわかると思うんですが。

◎中村委員 だからそれを例えば物品や金銭に限るものでなかったら具体的に何なんだということをつっ込まれたときに、文言にして書いておいたほうが話は早いです。

◎渡邊副委員長 過去のほかの事例なんかで幾つかあるものとしては、1つの手法として、ある種の権利を与えていくというパターンがあります。例えば図書館についての議論をしたときに、図書館のオープニング・セレモニーに招待するといった形はあると思います。一番初めの日に行きたいとか、そういうときに参加することができますよみたいな権利を与える。権利というか、招待状ですね、一言でいうと。招待状みたいなものが来ると、こういったものは比較的物品や金銭には限らないものもあるでしょうし、これは例えば典型的な1つのパターンなのですが、ほかにもいろんなおそらくアイデアはあると思いますので、お金があまりないので、お金をかけず、だけど、例えば市役所をいつか建て替えるときの見学会にこのような参加者の方々にそういった機会を用意しますとか、こういったものであれば、ある程度アイデア次第でやれるんじゃないのかと。ほかにもおそらくちょっとしたスペースの利用のチケットとかがあれば、そういったものがあるとか、割引きするとか、そういったものをいろいろアイデアとしては、いろんな自治体でやっているところはあるのかなと思っています、私のイメージは。も

ちろん物品や金銭でも時にはあるのかもしれない。ただ、そこはもっといいアイデアがあればぜひいただきたいですし、そういうものはいろんな手を使って皆さんに参加していただきたいというのが発想です。

◎西尾委員長 何を思っているんだろうなというのが、ちょっとわかるように……。

◎渡邊副委員長 確かにそうですね。

◎西尾委員長 するということも、何かあってもいいかもしれないし、あと金銭ということはあり得ますかね。いわゆる無作為抽出で日当を払うというやつですかね。それがあり得るのかどうなのかで……。

◎一山委員 ワークショップに参加して日当をもらうんですか。

◎西尾委員長 三鷹はそうですね。ワークショップというか、会議ですね。

◎渡邊副委員長 結構そのような自治体はありますね。いわゆる参加型調査で無作為抽出をし、1日で二、三千円、そのかわりに1日拘束してちゃんと意見を言ってもらうのが前提です。これは要は暇な人しか来ないのだと、逆にそれはよくないので、これは裁判員にお金を払うのと似たようなイメージですね。

◎大久保委員 市民討議会だと高いと1万円ぐらい出るところも、日当。

◎渡邊副委員長 予算の問題も。

◎中村委員 でも、小金井じゃ、そういうことはできないでしょうね、おそらく。三鷹は裕福な都市だからできるでしょうけど、あまり現実的ではないかなと、金銭……。

◎一山委員 じゃ、こきんちゃんグッズ。

◎中村委員 そういうことがあると、小金井市にあってる。

◎西尾委員長 市では金銭はあり得ないというなら物品だけでもいいんですけど。

◎一山委員 意見を言わせていただいて、よろしいですか。市長や市職員に直接話ができる場を設けるといようなことはだめでしょうか。

◎西尾委員長 なるほどね。

◎一山委員 市長の方が直接話をしたり、市の方とも話をできるよということ、市の方はお仕事、市長もお仕事ということで、直接お話しをいただくというのは、ここの格調高い文章の中でここだけ物品や金銭って、ちょっと格調が高くないような感じがしたので、しかも財政的にちょっと厳しい小金井市としては、こきんちゃんグッズ以外を振り返り……。

◎西尾委員長 金銭は取っちゃいますかね、どうですかね。

◎渡邊副委員長 ここは皆さんのご意見があれば、また現実的でなければ取っても。

◎佐久間委員 前も言ったかもしれないですが、ポイントみたいな形で、それを何かのことに利用できるようにする。

◎大久保委員 「物品や金銭」のところを「物品や金銭等を含む参加者特典」みたいなのでいかがでしょう。

◎西尾委員長 文言としては、物品や……。

- ◎大久保委員 「金銭等を含む参加者特典」、参加者に対する特典をつける、参加者に対する特典を導入する。経費等は行政に頑張ってもらいたいと思う。
- ◎西尾委員長 限るものではなくて、それをこの点については、すみません。もう一度言っていただけますか。
- ◎大久保委員 「物品や金銭等を含む参加者への特典を導入する」。
- ◎西尾委員長 参加者への特典か、「特典を導入する」、後ろの考えてもいいというか、これは取っちゃうわけですね。
- ◎大久保委員 それはお任せします。でも、幾つかワークショップの案内があって、これに参加するとこういう特典があるとか、そういうのがあると、これに行ってみようかなというのは確かにつながるんじゃないかと。
- ◎西尾委員長 インセンティブを与えることも考えられる方法については、何となく金銭という言葉は何となく……。
- ◎中村委員 物品とかにしちゃいますか。
- ◎西尾委員長 物品や、こきんちゃんを書くのもいいと思うんですけどね、もしあれでしたら。小金井グッズですかね。何ていうのですか、ああいうのは。
- ◎渡邊副委員長 市のオリジナルグッズ……。
- ◎原委員 市民層への経費という言葉は続きとしてちょっとおかしい。
- ◎西尾委員長 具体的にあるのは、市のオリジナルグッズ。
- ◎一山委員 よろしいですか。そこまで具体的に言わなくても、もうちょっとぼかした感じで、しかも検討課題という形でやったほうが、実際の市の方が動かれるときにいいのかなと思うので、全然いいかわからないんですけど、佐久間委員がおっしゃっていたことを踏まえて、小金井市独自のポイント制度の設置なども検討したり、市長や市職員に直接話し合いの場を設けたりするなど市民層やより一層市政に興味を持っていただくようなあり方を検討してほしいとか。
- ◎中村委員 よろしいんじゃないですか。
- ◎一山委員 いや、わかりません。
- ◎中村委員 いや、いいと思う、そういう……。
- ◎一山委員 検討という言葉を入れておいたほうが、具体的に動きをするときに市の実際にこの会議に参加されているような方々が、この市に合ったようなあり方を、小金井市独自のポイント制度の設置なども検討したりというふうに、検討したい、その結果だめでしたとか、検討したり、市長や市職員に直接話し合う場を設けたりするなど、それを検討するとしていただきたいというのは、それは正副委員長の格調高い文章に全然そぐわないかもしれないんですけども。
- ◎西尾委員長 いやいや、だからインセンティブを受け取った市長が、こういうことかとわかるように表現するということですよ。物品というのが1つあり、ポイント制で、ポイント制でわかりますかね。

◎一山委員 ポイント制度の設置なども……。

◎西尾委員長 ポイント制度の設置……。

◎一山委員 なども検討したりというような、要するにまだポイント制というのが小金井市ではないので、それをなどとしていますから、同様のことをお考えか、あるいはもうちょっと別のことをお考えかもしれないので、便利な言葉などを入れていただいとということです。

◎西尾委員長 物品ポイント制度の設置……。

◎一山委員 私は物品を取っちゃったほうがいいかなと。

◎西尾委員長 物品を取る。

◎一山委員 この点については小金井市独自のポイント制度の設置等も検討していただきたいか、したい、市長や市職員に直接話し合いの場を設けるなどといって、後に……。意味はわかりませんか、ここに、こきんちゃんというのが、この前12月だったか、いただいたときに食べるお菓子はよかったんですけど、こきんちゃんグッズはちょっと困るなっていう。

◎西尾委員長 結局物品に戻りますかね。

◎佐久間委員 景品とか。

◎西尾委員長 景品ね、物品よりも景品。景品というのはくじで取る、景品というのは何でももらうものは景品ですかね。

◎佐久間委員 そうですね。

◎西尾委員長 景品ですかね。物品、景品。

◎一山委員 私は、小金井市は清貧なので、清く貧しいのであまり経費がかかるような言葉は、文言としても盛り込まれたら困るんじゃないかなと、ポイント制度だったら、ポイントで何かというのは、その後もフリーハンドですし、それから設置等の検討ですから、設置しないよという選択肢もあるわけで。

◎渡邊副委員長 ただ、ポイント制については、おそらく行政側としては結構つらいところがあって、管理が大変になるんですね。今、似たようなポイントでおそらく入っているのは、小金井市はこの前から始めたようですが、介護保険のボランティアポイント制度があります。この制度は、介護保険番号にひもつけてやるとかで、そうするとその管理をしなければいけない。かつこの制度は換金可能であり、介護保険制度の中で動いているので、かなり厄介なんですね。当然ながらポイント制を1回導入すると、そう簡単にやめられないことと、その管理コストを考えると、実は安いようで意外にコストは高いのす。全くそのあたりは結構、いろいろ多分オプションが考えられるんですが、そのオプションはどれが実行可能性が高いかというのは、いろいろ議論していただくことになります。ただし、大事なポイントは何かということ、関心を持っていない人、こういうことがあったらちょっと行ってもいいかなと思える人を増やす経路をちゃんと考えてくださいということだと思っんです。それがポイントでもいいし、物でもいいし、こきんちゃんでもいいんですけど、それでなくて、例えばふだんは絶対にやらない幼稚園でやりますよとか、そんなのもあるかもしれないですし、それこそ市長室でやってもいいわけ

ですね。なかなか入れないけど。イメージの一つとして。つまりやり方とインセンティブの持ち方は、誰に来てほしいかによって変わるので、むしろ来たい人が来くなるようなものというのが一応市としては参加を促したい市民層、物によって変わるでしょうし、また、お金が大事なのか、できるだけ安い、あるいはできるだけ手間暇がかからないものを考えるといい、ただ、中身はあまり我々が詰めるよりも、皆さんに投げてしまったほうがいいのかなと、それは多分テーマによって変わるというイメージなのかなと私は思っています。

◎西尾委員長 導入するのは市のほうですから、どうですかね。議論は分かれるところですが、物とか、ポイントとか、そういう市長と話す機会とか、そういうのを列記して、などの検討というふうにしたらどうでしょうかね。

◎一山委員 これも先ほどと同じように、この場で結論を出さずに、1度市に投げて、検討していただいて、これは困るとか、あるいはもっと逆にこういうことができますよとか、ほかの課でやっていますよというのをいただいて、次回にというのはいかがでしょうか。

◎西尾委員長 よろしいですかね。今いろいろ意見は出ましたので、例示という感じでクリエイティブに最終的には考えていただくわけですが、では、そのところはちょっと……。

◎原委員 すみません。私は、一市民として、物品とか、景品とかという言葉が嫌いです。何かでつられるみたい、そういうところなんかは絶対参加したくないと私は思います。だから例えばそういうことをやることで、市のいろんな施設とか、催し物には優先して行けるとか、そういう景品の出し方、景品という言葉は嫌いだけど、そういう感じだったらいいけど、景品とか物品とかなんていうのは、すごく気に入らないと思わないですか。だから市の施設を優先して使えるのか、わからないですけど、そういうふうな特典みたいな感じがいいと思います、景品とか物品よりも。

◎渡邊副委員長 僕もお花見のときに……。

◎原委員 何かは知らないけど。

◎西尾委員長 上品な感じで。ちょっとそれは預からせていただいて、そのほかいかがでしょうかね。さっき出たのは、広報の問題なんですけど、どうぞ。

◎大久保委員 広報について、例えばワークショップの募集の仕方を申し込みフォームみたいなのでSNS等から飛んでできるようにするというのが1つのアイデアで、できればそういうところでSNS、ホームページ等を活用してというのと、あとできればワークショップの中身のある程度事前に知っているのと、例えば当日配布するであろう資料であったり、そういったものもホームページ等で拝見できると、ちょっと興味あるなというのが、どうしてもタイトルだけだとよくわからないというところがありますので、もう少し中身を事前に、ネットであれば配信できると思いますので、そういうことに取り組んでほしいなど。

◎西尾委員長 なるほど、事前がいいですかね。

◎大久保委員 そうですね。募集するときと一緒に載せていってもらいたいかなと。

◎一山委員 委員長、よろしいでしょうか。

- ◎西尾委員長 ちょっと待って。今のは文言で入れるとすると……。
- ◎一山委員 後ろの方にSNS等というのが書いてありまして、アが入るところで最後の4番目のところにSNS等をテーマごとに使い分けながらというのもありますので、先ほどの大久保委員の貴重なご提案をうまく言葉を整合性を持って入れたらどうでしょう。
- ◎西尾委員長 これは呼びかけの話ですが、どちらかという情報公開的な話ですかね。
- ◎大久保委員 そうですね。事前に。
- ◎西尾委員長 いろいろ資料を事前に見ることができるということですね。
- ◎一山委員 概要ぐらいにしておいたほうが、資料ができていないかもしれないですね。
- ◎西尾委員長 資料は大体前日にできることが多い。なかなか厳しいでしょうね。事後でも例えばこの前のワークショップ、あの資料というのは事後的に見られましたかね。
- ◎天野委員 そうするのはホームページに出ているかと思うんですが。
- ◎西尾委員長 あれは出ているわけですね、なるほどね。事前、あるいは事後に、どこかに書いていないかな。項目を立てますかね。エぐらいにして、ワークショップ用の資料、データについては、事前、あるいは事後に誰にでも入手できるようにするとか。ワークショップに使う資料、データについては、事前、または事後に誰でもホームページでということでしょうね、誰でも入手できるようにする。大事なポイントです。
- ◎一山委員 委員長、よろしいですか。アのところですが、1行目の市報やホームページを活用してというホームページの後ろに、以前、原委員がよく言われていた分館ですね、北町分館とか、そういう分館や図書館を活用してと、そういうところでチョコレートの作り方とか教えられたときに、若い高校生の方に、今度こんな集まりがあるんですよとかというのは、結構地道にロコミというのが、こういうのを広める手段かもしれませんので、市報、ホームページで具体的に書かれるのであれば、せっかく各地区に分館、図書館機能を兼ねたような北町分館みたいなのところにもたくさん若い人がいますので、市報やホームページや各地区の分館及び図書館、他市では市民ホールというものでしょうか、そういうのをもし文言として入れていただければ。
- ◎西尾委員長 それは紙などではなくて、ロコミでというか……。
- ◎大久保委員 紙とロコミ両方で、原委員みたいな方がいらっしゃるところはロコミで、そんな方がいらっしゃらないところは紙でという。
- ◎西尾委員長 その表現をどういうふうにするかですよ。
- ◎大久保委員 細かいことは、一覧の広報媒体としてはというところに書いていらっしゃるので、要らないかなと。要は大きな市報で、ホームページと各地区の分館、あるいは図書館という。
- ◎西尾委員長 市報やホームページを活用し、市の公共施設での……。
- ◎大久保委員 で広く市民に参加を呼びかける。
- ◎西尾委員長 わかりますかね、公共施設で。

◎大久保委員 それは文言はやはり市独特のことなので。

◎西尾委員長 公共施設での、何て言えばいいですかね。口コミと宣伝。

◎一山委員 というか、これは市長への提言書なので、こういう形で書いておけば、あまり口コミというのを書かなくてもいい、読まれて質問があればして下さるでしょうし、あるいはもう1枚何か、次期委員にはこういうのを提言しますというのを市長にお見せしてもいいかなと。

◎西尾委員長 広報というのは、紙もあるし、それ以外があつて、公共施設でと、そこまで連想できるかどうかという気がするんですけどね。宣伝はあまり、これも品がよくないですからね。一般的な名称は地区の分館ですかね。という言い方がありますかね。

◎事務局 分館というか、公民館の位置づけなんですよね。ですから位置づけが。

◎中村委員 今のあれでいうと、市の各地区のセンターと書いてあります。センターの中に例えば北であっても東であっても、図書館と公民館が入っているので、各地区のセンターといいますか、センターという呼び名だと思うんですね。市の用語でいうと。私は市の職員じゃないですけど。

◎西尾委員長 例示になると思うので、地区センター、公民館、図書館とかとやれば、大体わかりますかね。

◎天野委員 中村委員のお話しでは、小金井市ではセンターといえば公民館。

◎西尾委員長 じゃ、センターだけでいいですかね。

◎渡邊副委員長 センターだけで、そうですね。ただ、図書館の本館とかもあるので、その辺はセンターじゃないですね。

◎中村委員 このちょうど偶然資料2が手元にある。その裏の旧フォーマットの閲覧場所は公民館各館、福祉会館、婦人会館、総合体育館、図書館本館、保健センター等が、一言、市内公共施設という形でまとまっていますので、これは市内公共施設なんじゃないのかな。

◎原委員 そう思う、それでまとまる、一言で。

◎渡邊副委員長 ただ、例えば原委員からのご実感で、ここは特に重点的にやったほうがいいというものがあるのであれば、それは書いたほうがいいと思うんですね。例えばだらだらある中でも、公民館は今かなりこういうので大事だと思いますとかというのが、むしろご提案いただけたら、特にそこは重点的に考えていきたいと思いますみたいな形、この手のものは全てのところで同じようにやる必要はないと思うんですね。そのあたり、もしご意見があればぜひいただいたほうがいいのかなと思うんですね。ここは結構いけますよみたいな。

◎大久保委員 先ほどちょっと、今の関連で、原委員と話をさせていただいた中で、公民館というよりは、公民館を使っている市民団体ですよ、対象は。だから公民館を利用している市民団体等を通じて案内すると、ずばりになるんじゃないでしょうか。用のない人は公民館になかなか行かないと思うので、多分利用している方々が一番されると思います。

◎西尾委員長 アのところでもいいですか、じゃ。「市報やホームページを活用し、地区センタ

一など市の公共施設での活動を通じて広く市民に参加を呼びかける」、そう言うとおきましょ
うか、とりあえず。

◎大久保委員 公民館等を利用する市民団体を通じて市民に参加を呼びかける。

◎西尾委員長 市民活動と総称していいですかね。

◎大久保委員 市民活動とはちょっと違いますよね。いろんなサークル等がありますので。

◎渡邊副委員長 趣味でもいいということなんですよ。でも、やっぱり皆さん来ているので
関心が高いだろうと。

◎西尾委員長 センターなど公共施設を利用する市民団体ですかね。

◎大久保委員 そうですね。

◎西尾委員長 「市民団体を通じて広く市民に参加を呼びかける」。じゃ、それを案のところ
へ加えたいと思います。かなり具体的な提案ですよ。そのほかはいかがでしょうね。

◎原委員 市の人に聞きたいんですけど、公民館ですよ、正式名は。私らは、例えば東公民
館とかというのがちゃんとした名前、私たちは勝手に東センターとか、何々センターとか言
っているけど、ちゃんとした名前は公民館ですよ。

◎中村委員 公民館は公民館として東分館かな、図書館は分室というふうに各名称があつて、
ただ、複合施設になっているので、総体すれば地域センターという呼び方があると思いますけ
どね。

◎事務局 東と貫井南と緑が図書館の分館と公民館の分館、だから図書館の分室と公民館の分
館とって、両方あるとセンターとって、緑センターと東センターと貫井南センターという
言い方をしています。

◎原委員 両方があったらセンターなのね。北センター。

◎事務局 北だけまた特別な俗称というか、愛称があります。

◎中谷委員 北センターですかね。

◎事務局 北センターですかね。本当は貫井北センター、その辺は用語を整理したりとかさせ
てもらって。

◎原委員 そうですよ。それがいいかな。

◎西尾委員長 そのほかでいかがですかね。

◎大久保委員 3番の議論の成果でいいですか。そのアの部分で、先ほど冒頭部分であった参
加者に対して、その結論のフィードバックであったりとか、その成果を見られる、ホームペー
ジ上でとか、そういう成果を見られる場所を作る必要がある。

◎西尾委員長 参加者に対し、また広く市民に対してですかね。また、どうですかね。

◎大久保委員 そうですね。ワークショップの最後に、この結果がこういうふうに扱われます
よだと、その場で終わってしまうので、終わった後の成果をどういう場面で外から見ることが
できるのか。

◎渡邊副委員長 あともう一つ、今のところで、そういったホームページを必ず設定する形で

すね。議論の成果は参加者の共有を図るとともに、発言者等を匿名化した上で、市のホームページや報告書等で広く共有しというふうに書いてみたのですが、要はワークショップの成果の常設のページをここにいつも最新版を反映させますみたいなページを作るとか、そういったイメージですか。

◎大久保委員 そうですね。市のホームページ上にもワークショップの1つの項目ができるぐらいで、そこで今こういう意見で、こういうところで、こういう状況で使われたとか、その成果が見られると最終的に。

◎渡邊副委員長 市の専用のホームページだとかという形にして、ワークショップのページがあるみたいな。

◎西尾委員長 それもどういう形でやるのかなかなかあれですね。

◎渡邊副委員長 今までは広報の方々がいろいろ対応できるような形で。

◎事務局 ちょっと技術的な部分もあるでしょうしということだと思いますけど。

◎渡邊副委員長 管轄の問題とかもあるんでしょうか。

◎大久保委員 その管轄に行かないと見られないというのは、またネックで。

◎渡邊副委員長 そうなんです。深いんです。

◎大久保委員 どこに行けば見られるのか。どこにあるんだろう。

◎西尾委員長 市のホームページの中での検索よりも、グーグルでやったほうがいいですね。

◎大久保委員 速いですよね。

◎西尾委員長 うちの大学も似たようなところがあって。

◎一山委員 委員長、よろしいですか。議論の成果のアのところ、こういう文言はだめでしょうか。ついつい自分は市の方の仕事量を考えてしまうので、必要があるという後に、「また市民へのフィードバックは、重要な検討課題として次期委員に検討課題としてほしい」とか、「引き継いでほしい」とか、実際我々は言うのは楽なんですけど、やるほうはめちゃくちゃつらいんじゃないかと。100点を目指すよりも、やっぱり合格点の60点をまずとっていただくことが大事かなと思いましたので、大久保委員の貴重な意見もありましたので、「ワークショップでは参加者に対し議論の結果がどのように扱われるかを明確に説明する必要がある。また市民へのフィードバックは重要な検討課題として、次期委員会、あるいは委員に引き継いでほしい」と。我々がここから検討するのはちょっと時間的に難しいので。

◎西尾委員長 アは参加者に対してのことですね。

◎一山委員 それでその次に市民へという。

◎西尾委員長 その次のイは、これは市民一般を念頭に置いていますかね。

◎事務局 今基本的に、この文章のほぼ全ての主語というか、客語、対象ですよ。提言対象は市なので、市がそういう場を用意してくださいという形で書かれていますので、だから今の一山委員のご意見を反映するとしたら、その議論の成果を市が、議論の成果の反映方法については今後の検討材料であるみたいな形になるというのは。かなり具体的な話です。

◎西尾委員長 市の計画へ反映させることが望ましいと。

◎渡邊副委員長 最後に少し私が持って回った言い方で書いてしまった部分、3ページの11行目、「ここで言う議論の成果を反映させることとは、その採用させることを意味せず、市からの回答や説明などもその方法の一形態と言えよう」なのですが、おそらくこの2行をもっとより具体的に検討することが今後の検討材料みたいなことなのかなと。本当は言ったことを反映してほしいんです。けど、反映が難しい中でどういうフィードバックの仕方や周知や、あるいはそれを回答する方法があるかという点は、まだもう少し考えてもらってもいいのかなと思います。それは次期で考えてもいいだろうと、そういったイメージなのかなというふうに受け取ったんですけど。理解が間違っていますか。

◎一山委員 頭が悪いので、やっぱり単純明快な文章で。

◎西尾委員長 一番冒頭にフィードバックという言葉を入れたので、ここにも何かフィードバックという言葉をちょっと入れたらいいと思うんですよね、必要であれば。「議論の成果はできるだけ市民全体へのフィードバックも検討する」とか。

◎一山委員 重要な検討課題として次期委員会に引き継いでほしいかなと、というのは、冒頭に原委員のほうから、ワークショップのフィードバックについてご質問があったときに、市の方も回答にちょっと戸惑っておられるようだったので、やはりその辺はどうされるかというのは検討課題としてもらったらどうでしょうか。文案は正副委員長と、それから市の職員の方で練っていただいて、やはりこれはちょっと盛れないよということであれば、今回は見送るということも含めてご検討いただければと。

◎西尾委員長 次の委員会に何を言い残すかというのが一番最初にあったんですよね。おわりにつけ加えるという考え方もあるかもしれませんし。

◎一山委員 委員長、よろしいでしょうか。その他のイのところで、3行目に、市民と市職員・関係者ともというのがありますが、市長の提言なので、市長への、市職員の前に市長の、中ブロックしていた後、市長がお読みになるかどうかわかりませんが。

◎西尾委員長 市長ですね。

◎一山委員 市長・市職員。

◎西尾委員長 市長・市職員、関係者との交流。市長はぜひ出てきます。

◎五島委員 どこにというか、具体的なパターンじゃないんですが、今ちょっと思ったのが、このワークショップをやるということ自体が情報共有していくためのツールだと思うんですが、もちろんそのためなんだけど、それを発信することもそうだし、さっきも言いましたけど、情報発信というのは情報を共有していきましょうという、そういう基本的なベースの考え方というか、スタンスを持って、そういうワークショップを企画、運営していくとか、そういうことになるでしょうし、その成果を発信していくというのもあるだろうし、そういう……。

◎西尾委員長 全体的な考え方として。

◎五島委員 はいはい。

◎西尾委員長 考え方として。

◎五島委員 一言でもいい。

◎西尾委員長 共通の情報の土台を、議論の土台を持つためであるという。

◎五島委員 それがどこかにあったほうが、ニュアンスとしてあったほうがいいかなと思いましたが。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。大体そろそろ時間で、もう一言何かありますか、これは入れてほしいとか。今の五島さんのご意見とかで駆け込み。

◎中村委員 一言だけよろしいですか。これはもともと市民協働というところが、これまでの経緯からすると、市政の考え方に協働がうたわれているということで、その後、提言の中とかで市民協働というか、そこがそういう文言がないんですね。追加できるところは幾つかありそうですね。なるべく協働というところ全般にわたってまぶして使ったほうがインパクトがあるんじゃないかなということです。

◎西尾委員長 ありがとうございます。前回のときに参加と協働を区別して、あまり協働という言葉を使わなかったんですね。この市の中での考え方でちょっと区別して、そんな委員会があるんですかね。ということで、ほとんど協働は使わなかったんですね。それも相談してみます。もうちょっと参加と協働はそんなに明確に区別できるわけじゃないので、個人的にはなかなかそれは区別できないんじゃないかなという気はしているんですけども、ワークショップはいかにも協働そのものですけどね。参加でもあるけども協働である。それでは宿題はたくさんいただきましたけれども、こんなところでご意見はよろしいでしょうか。

◎五島委員 すみません、最初に、始まったときに思いついたんですが、市長に出すときに市長と懇談できないかなとちょっと考えました。

◎西尾委員長 一番いいのは文面確定の前に相談ですよ。ちょっとそれも考えてみたいと思います。私の一存でどうにもできないものなので。では、最後の議題になります。日程ですかね。

◎事務局 前回同様で、木曜日か金曜日で調整したいと思います。次回なんですけど、年度あけて、毎年行っています、附属機関等の調査の結果を皆様に見ていただいて指摘をしていただく時間がありますし、ご報告をさせていただく予定なので、ちょっとお時間があまりありません。それで大半を占めさせていただいての、提言案の最終確定となりますので、メールでのやり取りを行う可能性もありますので、そちらも視野に入れてなんですけれども。日程です。5月25日木曜日、26日金曜日、そして6月から市のほうで議会が始まる都合もありますので、6月1日木曜日の3日のいずれかで調整したいと思いますがいかがでしょうか。

◎西尾委員長 5月25日はたとえばいかかでしょうか。5月25日は候補なんですね。どうでしょうか。大丈夫でしょうか。私は金曜日でも平気ですけども。

◎佐久間委員 5月であれば大丈夫です。

◎西尾委員長 大丈夫ですか。

◎事務局 25日木曜日の夜。

◎西尾委員長 時間はどうでしょうか。6時は早すぎますかね。

◎一山委員 6時は来れないです。7時の方が。

◎西尾委員長 じゃあ5月25日の7時ということで、次回は開催したいと思います。それまでに、メールでの相談が大いにありうるということで。7時ということで。9時をちょっと過ぎてますね。今日は長時間ありがとうございました。

(午後9時03分閉会)